自由民主党県議会議員
笹川博義
県政報告
まちも ひとも 元気ハツラツ!!
まちづくり行動派宣言

笹川ひろよし後援会
〒373-0818 群馬県太田市小舞木町270-1
TEL.0276-46-7424　FAX.0276-49-2367
ホームページアドレス　http://www.sasagawa-hiroyoshi.com/

県民の幸せを求めて活動
かけがえのない生命を守るために

県議会議員としての4年間はリーマンショックによる経済不況、自民党敗北による政権交代など激動の時代を味わいました。その中で、県政は治安、教育、福祉、産業支援、地域づくりなど市単独ではできない問題に取り組んでいます。私は厳しい時代だからこそ、元気に前向きに「暮らしの安心、育てる安心、学ぶ安心」をキャッチフレーズにして全力で取り組み、これを推進するための活動を行います。

かけがえのない生命を守り、地域住民の健康とより質の高い保険医療サービスを受けられる環境づくりを提案してきました。その一つが**救急医療**と**小児医療問題**です。医療は時間との戦いでもあります。救急患者の対応処置によって、生死を分ける場合があります。このため、**救急医療センターの設置と現在ある施設の充実を要望**してきました。救急医療対策として、総合太田病院移転建替事業と一体とした**太田市高度救急医療施設を整備に財政支援（30億円）も決定しました。**

また、平成22年の6月議会では、**前橋赤十字病院の役割**について、質問しました。中でもドクターヘリは平成21年から運用されました。これは、県内全体を20分以内ですべて網羅できるものです。災害ならびに救急医療に大きな力を発揮しています。

平成21年に運用が開始され、1年3ヶ月で、349回の出動です。今後は24時間態勢への移行が課題となっていますが、今後とも他都市の現状を研究しながら、ドクターヘリの充実を提案していきたいと思います。

暮らしの安心　育てる安心　学ぶ安心

小児医療に増床費用予算化

東京都内での、妊婦が相次いで搬送断わられた、という問題が発生しました。中には出産後、亡くなられたという痛ましい事件もありました。新生児集中治療管理室（NICU）が満室だったことが要因でした。全国的にも**NICUの受け入れ床数が不足しているのが現状**です。私は県に対して、この**増床を要望**しました。そして、県立小児医療センターの**新生児集中治療室の増床費用として、今年度は5億円近い予算が計上されました。**

とにかく、県民にとって「救急車がきてもホッとできない」ような環境では安心ができないものです。急病が発生しても、すみやかに対応ができ、適正な受け入れる施設があること。また、そこには専門の医師が整っていることが大切です。

県としても、県民の生命を守ることに関しては積極的に事業が展開されていますが、今後は県内の医療機関と連携していくシステムづくりが必要になってきます。太田地域としては、県境を超えて足利日赤との連携も研究すべきです。

犯罪のない社会へ

安心して暮らせる社会の大前提として、犯罪のない社会づくりがあります。「いつ生命が奪われるかもしれない」。そんな不安な社会であってはならないと思います。なんの関係もない高校生が、刃物で刺される事件が起きました。最近の傾向をみると犯罪は多様化し、凶悪化しています。全力をあげて治安の強化を図るべきです。

そのためには、犯罪を未然に防ぐ努力と環境の整備が必要です。私は以前から警察官の増員と警察官OBの活用を訴えてきました。また、民間パトロール隊への支援と強化、地域ネットワークの充実です。

群馬県では一軒一灯運動が効果をあげています。犯罪に巻き込まれないような環境の整備が必要だと思います。パトロールとともにすみやかな相談業務体制の充実です。明るく安全なまちづくりへ警察も地域も学校も家庭それぞれが一体化した組織と活動が求められています。情報を共有することで迅速な対応ができると思うからです。

万全な治水対策を推進

県民の皆様の生命と財産を守る

防災時の救助・救援の取り組み

浸水想定区域の作成とハード面の充実

全国的に予想を上回る自然災害が発生しています。群馬県は、地震災害が少ないものの集中豪雨などによる水災害が発生しています。県民の生命、財産を守り、災害時の救助、救援のための取り組みを行わなければなりません。

県は被害を軽減するため、浸水想定区域図の作成しています。これにともない関係市町村では洪水予報等の伝達方法や避難場所等を記入した「ハザードマップ」が作成されています。

ハード面では、とくに浸水被害が発生した箇所の重点的な治水対策を進めており、調整池整備や側溝整備などの治水対策を今後とも推進して参ります。河道の拡幅やダムを組み合せた治水対策を推進しているところです。

地元選出の知事とともに、太田の発展のために頑張ります。

国交省の参考人招致を八ッ場ダム問題

国が行う八ッ場ダム建設も安定的な飲み水の確保とともに治水対策としても重要な事業です。民主党政権になって、前原誠司前国土交通相から「八ッ場ダム建設中止」が表明されました。これに対して平成21年9月の**県議会産経土木常任委員会において、中止表明について県の見解を質問しました。**

とくに、国と県と長野原、東吾妻両町が結んだ八ッ場ダム事業の基本協定について「民事訴訟で履行責任は問えないか」と。そして「国の意向を聞く場を設けるべきだ」と提案、国交省の担当者**参考人招致**が実現しました。

耐震化が円滑に進むように

■幼稚園、小学校、中学校、高校の耐震化について。

私は中国四川の大地震の惨状を見て、県内の幼稚園、小中高の耐震化について関心をもちました。安心して教育が受けられる環境をつくるには、この**耐震化問題**は避けては通れないからです。平成22年6月定例会でも**質問**しました。

中でも国の私立幼稚園の施設整備費補助の減額により私立幼稚園の耐震化事業は、大変厳しい状況にあります。

県としても**私立幼稚園耐震化促進費補助制度を新規**（平成21年度予算）に定め、次代を担う子どもたちの安心・安全を図っているところです。今後とも国に対して、耐震化が円滑に推進されるよう他県と連携しながら働きかけるよう要望しました。

■群馬県は全国でも車の保有率の高い県です。そのため、交通人身事故の発生率は全国でも高く、群馬県では「交通安全計画」がたてられ、安全教育や啓発運動を展開しています。

なかでも、交通弱者と言われる「子ども」や「お年寄り」を重点に置いた、きめ細かな交通事故防止対策を進めています。

私は議会でも警視庁が発表した**一般道路区間の速度、駐車区間、信号機等の規制**の見直しについて、警察本部長に、県の対応を質問しました。これによれば「あくまで交通規制は、道路交通の安全と円滑のために行われることが原則でありますが、**市街地における通行規制や駐車規制等については、まちづくりの視点から自治体や地域住民、商店街の意見を伺いながら見直しを進めていく**」と答弁がありました。これに対して、私は、お年寄りや子ども、障がいをもつ方々の目線での「優しい道路」と交通規制であってほしい、と要望しました。さらに、交通事故被害者に対する相談の充実を含めた事故後の対策と支援も考える必要があると思います。

子供やお年寄りの目線で交通対策

少子化対策と子育て支援 子どもは宝

子どもの数が減少すること（少子化問題）は、今後の高齢化にともなう社会保障制度や国が支えなくてはならない問題につながってくるものです。この少子化対策は、大きな視点でみれば「国家存亡」にかかわるものです。

群馬県では「子どもを育てるなら群馬県」とかかげていましたが、合計特殊出生率（1人の女性が生涯に生む子どもの推定人数を示すもの）が低下を続けている現実、そして子供医療費の無料化について初めての一般質問で指摘させて頂きました。

出産、家事、子育て、さらには仕事と女性の皆様のご負担にとって大変な事です。まして、女性の社会進出のが高まり、働く女性も増えています。家事に子育てに仕事にと女性の負担は非常に重いものがあります。

こういった女性のライフスタイルに合わせた支援が必要でもあります。勤労と育児が両立できる環境づくりを研究していきたいと思います。「子どもは国の宝」という言葉を、胸に刻んで、皆様方の意見を聞かせていただき活動していきます。

まちの元気と笑顔

緊急雇用対策や交通網の整備
観光立県群馬の推進など

「まち」に笑顔が満ちあふれ、夢と希望のもてる社会をめざして。その背景にあるのは心の豊かさとともに経済的な豊かさがあります。安心して働ける場があり、暮らしの安心が必要です。県政においても雇用対策や景気対策、都市基盤の整備など実施してきました。

自民党県連としても「経済の活力」を高めるためのリアリティのある次のような政策を打ち出しています。

■緊急雇用対策
■北関道の早期開通
■県内交通網の整備
■八ッ場ダム建設促進
■農林業の振興
■低炭素社会の推進
■観光立県群馬の推進

◇

以上に掲げた内容は、太田市についても関連が深いものです。**緊急雇用対策については、議会でも質問し、21年の7月補正予算には、雇用創出事業に30億円、農業者支援、後継者育成、鳥獣害対策に2億円、介護職の給料アップに8億円等が盛り込まれました。**

とくに、経済は、日々変化するものです。雇用対策は迅速な対応が求められます。県に対してもスピードアップを要望するとともに、県内の産業力をアップするため、優良企業の誘致を要望しました。知事は群馬県の良さをPRするなどどットップセールスマンの意識をもってもらうよう要望しました。

北関東自動車道の全面開通により群馬県は飛躍的に発展すると予想されます。その一つが物流の流れが活発になります。この高速道路の開通により、物流の拠点としての機能をもたなければなりません。

北関東自動車道へのアクセス、周辺の道路網の整備を進めなければなりません。人の動きも活性化されるため、地域の魅力をいかに発掘し、それを発信することが大切です。

人が集まり活発な交流を
地域の歴史を見直して
ぐんまブランドの育成支援

■地域の魅力について。

「人が集まり、活発な交流のあるまち」には、消費が生まれるとともに、文化が発展し、情報が豊かになります。これによって「まち」はに活力が生まれ、元気なまちになるわけです。

魅力は安全で、歴史があり、食文化がある、ということ。県会議員をめざすにあたり、自分なりの考えをまとめた小冊子「今、思うこと」の中でも「ぐんまブランド」の育成をかかげました。

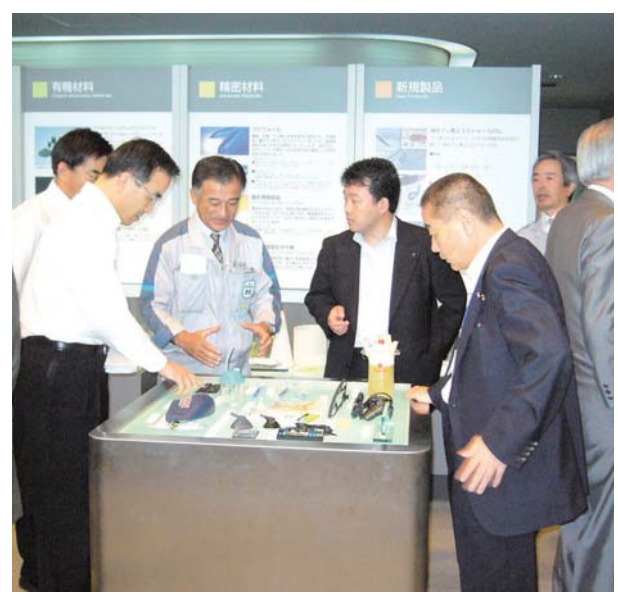
「ぐんまブランド」といっても、食べ物だけではなく、景観も製造品もそこに住む人もあてはまるものです。特色のある農業、工業、商業、文化、そして地域に迎えいれる人の心があってこそ地域の魅力が出てくるのでは、ないでしょうか。

「地元の人にとってなんでもないことが、他の地域からすれば、魅力に感じること」があるものです。とくに、東毛地域は、他地域に比べ災害の少ない所です。これも魅力のひとつです。

太田地域には歴史的遺産がたくさんあります。古墳時代のものから、鎌倉時代や室町時代、江戸時代、そして明治、大正、昭和の時代にも。

古墳時代なら天神山古墳に代表する数々の古墳があり、鎌倉時代や室町時代なら新田義貞と新田一族関連、江戸時代なら徳川の里としても有名です。世界に2つしかない縁切寺の満徳寺、近世では飛行機王・中島知久平の技術力が名車・スバル360を誕生させました。また、スイカやキュウリ、イチゴ等の農産物、工業製品の数々。

こういった素材を活かしながら、「ぐんまブランド」として、発信させることが大切です。観光立県として、丁寧にぐんまのすばらしいものを発掘し育てていき、積極的なPRを展開していくことです。



東部家畜保健衛生所　現地調査

行政委員の報酬を日額に見直しへ

リーマンショック以来、経済状況が悪い中、県政としても経費の節減と予算の効率化が課題となっていました。そこで平成21年2月の予算委員会において、**行政委員会の委員報酬**について質問しました。

知事、特別職、管理職等の減額が明確化されましたが、行政委員の報酬について知事に質問したわけです。

平成21年、神奈川県では、全行政委員の月額報酬を見直して日額に改めると発表されました。

私も、行政委員それぞれの方が見識や経験の豊かな方が選ばれ、それぞれの職務に精通しているということは、よくわかります。

しかし、どのような仕事をしているのか、県民の皆様もよく知りません。**県としても説明責任を果たし、月額にするか日額にするか、どちらが妥当なのか検討すべき、と提案**しました。

その後、9月の定例議会において一般質問で取り上げさせて頂き、**知事も見直しを改めて表明、今年度中にも実施される見通し**になってきました。

さらに、県執行部は細かい事業にわたるまで、見直し作業を進めていますが、その結果を議会報告されました。事業の見直し、いわゆる廃止や休止になった事業は146件、縮小になった事業は36件と報告があり、これらの財源を新たな財源として活用されます。

食育・徳育について

体験学習の推進 感謝の心を育成

■物事の善悪について。人がどう生きなければならないのか、社会生活のルールをしっかりと身につけられる環境づくり。「3つ子の魂、100までも」と昔から言われてきました。子育てに悩む親もたくさんいます。ここでは食育、徳育の教育について述べたいと思います。

私達が当たり前のように、食事ができのは農家の方々や酪農の人、食品を加工する人など様々な人たちがかかわっています。その社会的かかわりを子どもたちに教えることです。体験学習する推進することによって「感謝の心」を育成させたいと思います。そして、地域や家族の絆を深め、将来の子どもたちを官民一体で育てたいと思います。

学力については教師のレベルアップと「不適格教師」に対するチェック機能の充実です。議会でも取り上げましたが、教員処分の基準策定を要望しました。

元気な子どもの笑顔

犯罪もなく子どもたちが「元気」な社会づくり。子どもたちに笑顔があふれるようになれば、いいと思います。

教育は大きな転換期を迎えてます。倫理観の喪失、家庭教育、学校教育の低下など課題は山積みです。「文武両道」という言葉がありますが、学力とともに健康増進や人と人のつながりが学べるスポーツならびに武道の推進を提案していきます。

子どもが自立し、社会に役立つ子どもを育成するためには、心身ともに健康でなければなりません。スポーツ少年団への支援が必要です。また、様々なスポーツがあります。それらの情報交換できる場を設置し、指導の上での悩みなど語り合える機会も必要になってきます。

武道については、歴史から学び、受け継がれて来た精神を学ぶことができます。とくに、礼節を身体で身につけることもできます。学校教育の中でも武道について、子どもたちと一緒に考えることも必要です。指導者については、各武道が集まる武道連盟的に協力を要請するとともに、県としても組織への支援を行っていくことが大切と考えています。

虐待のない環境づくり

■「児童相談所への相談件数が全国で約4万5千件数（昨年度）ありました。わが子を虐待したり、死なせたりと悲惨な事件が多発しています。母親の幼児放棄（ネグレクト）の末、わずか3歳と1歳の姉弟がマンションの一室で、死後1ヶ月後に発見するという痛ましい事件がありました。私も3人の子をもつ身として、こういった社会は絶対にあってはならないと思っています。

「無縁社会」という造語がありますが、地域での人と人との交流が減少しているせいではないでしょうか。昔なら「向こう三軒両隣」という言葉がありました。互いに支えあったぬくもりのあふれる環境がありました。是非、地域の「絆づくり」を県政でも推進していきたいと思います。

予防医学と生きがい対策

■高齢化社会の対応と障がいをもつ方への対応について。

私の政治に対しての信条の一つに「政治は弱い立場の人のためにある」があります。県政においても、常にそのことを肝に命じて行動してきのました。お年寄りも子供も障がいをもつ方も安心して暮らせる社会をめざしていきたいと思います。

まず、県民のみなさんが健康であること。予防医学を充実させること。健康イベントを充実させ、健康について考える機会をつくること。

お年寄りと子供たちのふれあいを高め、お年寄りには「生きがい」を子供達には、生きていく上で大切な知恵を学んでいくことです。

笹川博義〈ささがわひろよし〉プロフィール

生年月日/昭和41年8月29日生まれ

■**趣味** 映画鑑賞、ガーデニング、読書
■**好きな言葉** 兼愛非攻
■**家族** 妻・子供3人 **5人家族**（太田市小舞木町在住）

〈群馬県議会 所属委員会〉
●ググッとぐんま観光推進 特別委員会 副委員長
●環境農林 常任委員会 委員
●議会改革検討委員会 委員
〈経歴〉
●産経常任委員会 副委員長
●地域活性化対策特別委員会 副委員長
●予算・決算特別委員会委員などを歴任

群馬県空手道連盟 副会長
太田市吟剣詩舞道連合会 顧問
太田市少林寺拳法協会 会長
太田ボーイズ（少年硬式野球）顧問
上州ねぷた会 名誉会長
九合小 PTA 副会長
社会福祉法人 三晃福祉会 理事
社会福祉法人 親孝行の里 評議員
社会福祉法人 東毛会 理事
太田商工会議所青年部 会員
太田機械金属工業協同組合青年部 会員
太田ロータリークラブ 会員
（社）太田青年会議所OB
ひかり幼稚園 保護者会 元会長
太田市私立幼稚園PTA連合会 元会長